

オシリ、かゆくないですか？

まえおき

もちろん、ウシの話です。そしてオシリではなく正確にはシッポの付け根、**尾根部**とよばれるところについてです。**疥癬(かいせん)**という病気を聞いたことがありますか？疥癬とは、「**ヒゼンダニ**」というダニが皮膚の角質層(いちばん外側の部分)に寄生する疾病です。ヒトやイヌ・ネコも疥癬になりますが、ウシではダニの種類が少し異なり、主な原因となるのはウシシヨクヒヒゼンダニというタイプです。ちなみにシヨクヒは「食皮」と書くようです。多くは尾根部に特徴的なカサカサ病変を形成します(写真1)が、後肢の内側などにも病変をつくる場合もあります。

症状

ダニの病気ということで、ご想像の通りかなり**強いかゆみ**を伴うようです。そのため、病変部(尻尾の付け根)をこすり付けたり、落ち着きがなくなったり、尻尾を頻繁に振ったりといった症状を示します。その強い痒みの**ストレス**により、重症化すると**乳量や採食活動の低下、繁殖への負の影響につながる**という報告もあります。



写真1.
検診中に発見して、撮らせてもらったウシの尾根部

ヒゼンダニの確認

せっかくなので、確かめてみました。疥癬症に罹患したウシの尾根部をカリカリして角質を採取させてもらいました。そして、顕微鏡を使って確認しました！写真2と3が採取したサンプルを用いて、実際に顕微鏡で見つけたヒゼンダニです。



写真2.
ダニを4倍の対物
レンズで発見！

黒い長いものはお
そらくウシの体毛
ですね



写真3.
体長約200 μm
(0.2 mm)

見ているだけで、
だんだんかゆくな
ってきませんか？

治療法

基本的な処置は「**ポアオン**」といって、背中に沿って直接薬剤(駆虫薬)を垂らすだけです。育成牛であればアイボメックなどが使用可能で、軟膏と混ぜ合わせて病変部に塗っている農家さんもいます。アイボメックは搾乳牛には使えないので、エプリネックスなどが利用できます。よほどの重症症例でなければ基本的には1回の塗布で治癒します。疥癬が蔓延している農場では、**定期的な駆虫薬の“ポアオン”が生産性向上につながる**かもしれません。最近、増えてきたな～という方がいましたら、弊社獣医師にお声がけください。

おわりに

疥癬は地味な疾病ではありますが、ウシからウシに直接的・間接的に広がる可能性があります。海外の文献ですが、**疥癬が原因の痒みによる生産性低下(経済損失)も少なくはないよ**という報告もありました。これを機にウシのオシリ(尾根部)をチェックするもいいですね！ちなみに育成牛でよくみるガンベは皮膚糸状菌症(白癬)といって、ダニではなく真菌が原因で起こります。

かやの

[参考]

- 小松耕史ら. (2014). Chorioptes texanus による牛の疥癬に対するエプリノメクチン製剤の治療効果. 日本獣医師会雑誌, 67(9), 659-664.
Vieira, M. I. B., et al. (2014). Re-emergence of Chorioptes bovis (Acari: Psoroptidae) in cattle in the state of Rio Grande do Sul, Brazil. Revista Brasileira de Parasitologia Veterinária, 23, 530-533.
Almeida, L. S., et al. (2022). Bovine scabies: overview, impact on animal production, treatment and control.
高橋俊彦. (2011). 牛疥癬症に対するモキシデクチン製剤投与の生産性向上効果. 産業動物臨床医学雑誌, 2(2), 128-129.